

をこそ思ふべかめれとて、上句はそのまゝ置きて、くみてよわたる人もこそあれ、とつくりなほしたりとか、

〔槐記〕享保十年霜月十日、晝深諦院殿御茶ニ召サル○中釜 挑燈釜 コレハ常修院宮慈胤法親王御所持新作三菩提院宮

〔真敬法親王〕へ進セラレ、今此御所ニアル由ナリ、

十二年五月十八日、深諦院殿科拙山御茶下サル○中御釜クリン釜是ハ深諦院ニハ覺ラレズヤ、仰也、ナルホド覺奉リシヤウ也、今少シ長ケ高カリシヤウニ覺侍ルト申上ラル、ナ

ルホド好ヲホヘ也、常修院殿へ見セシニ、下ニテ三寸切テ、底ヲ入サ、レシナリ、

十三年十月十日、參候先日深諦院ノ問ハレシニ答ヘシ、爐ノ釜ヲ風爐ニカケ、風爐ノ釜ヲ爐ニ下スコトハ、苦シカラヌコトニヤト、常修院殿ノ常ニ仰ラレシ、風爐ノ釜ヲ自在ニテモ、クサリニテ

モ、爐ヘヲロスコト是常ノ習也、爐ノ釜ハ、護ニ風爐ニアグベカラズトノコト也、雲龍バカリハ、風爐モ又格別ニアリテ風爐物也、今ノ世ハ、爐ノ大釜ヲワリナク風爐ニカクルホドニ、大火ニアラ

ザレバ煮ルコトナシ、何ト謂コトゾヤ、

〔槐記續編〕享保十七年八月十二日、參候、日外車輪釜ヲ拜見イタセシ刻、仰ニ○近衛家照車輪ハ夜會ニ

カケテ一段ヨキ物也、火ノ影ノ炭ニウツリテ、其由アリト、三菩提院○真敬法親王ノ説也ト仰アリシガ、

近日車輪ノ釜ヲ見出セシトテ御覽ニ入ル、コレハ本遠州○小堀政一ガ物ズキ也、御流義ニハナキモノナレドモ、古ヘモカケラレタルヲ見タリ、三菩提院ニモカケラレタリ、汝道○山科ガ見セシ釜ハ

ヨカラズ、御所持ノ釜ヲ出シテ御見セナサレシガ各別ノモノ也、並ベテハ影モナキ由ヲ申シ上

ゲシカバ、左ホドニ思ハ、下サルベキ由ニテ拜戴ス、此釜ニテ當年ノ口切ヲ致スベキ由ヲ申シ

テ退出ス、十八年九月十三夜、九輪釜ノカケヤウニハ習アリ、カクルトキハ正直ニ持テ、五徳ニ

カケテ後ヘジラシテ、角ヲ兩方ヘ分ツベシ、サゲレバ柄杓ニサシ合ナリ、是九輪釜ノアシライナ

ル由、常修院殿○慈胤法親王ノ御教ナリト仰ラル、